



東北大学

Newsletter

TOHOKU UNIVERSITY Diversity, Equity & Inclusion NEWS



東北大学DEI推進センター

Vol. **5**
2025 Oct

「DEI」とは、「Diversity(多様性)」「Equity & Inclusion(公平性と包括性)」からなる頭字語(アクリニム)。東北大学が「訪ぐ」男女共同参画の取組が、ムーブメントとして拡がっていくことを目指しています。

Headline News

8月21日は「女子大生の日」 「たまか」うちわと「伊右衛門 特茶」を配布しました



「たまか」うちわと「伊右衛門 特茶」



「女子大生の日」の認知度に関する調査を行うサイエンス・アンバサダー



「たまか」のこけしを手にする富永総長(右)と田中副学長(左)

※「たまか」の使用については、DEI推進センターにお問い合わせください。

東北大学では、日本で初めて女子大学生を受け入れたという歴史的な出来事にちなみ、8月21日を「女子大生の日」として日本記念日協会に申請し、2020年7月に正式に記念日として登録されました。

今年度は、この記念日をより多くの方に知っていただくことを目的に、初の女子大学生の一人、黒田チカが発見した成分「ケルセチン」を配合した「伊右衛門 特茶TOKUCHA」とともに、「女子大生の日」を記念して誕生したサイエンス・アンバサダー(SA)のマスコットキャラクター「たまか」のオリジナルうちわを各キャンパスで配布しました。

配布にはSAも協力し、「女子大生の日」の認知度に関するボード調査も実施しました。その結果、「日本で初めて女子大生が誕生したこと」は広く知られていた一方で、8月21日が「女子大生の日」であることの認知度はまだ低いことが分かりました。

今後もこの記念日の周知を図るとともに、「女子大生の日」をきっかけとして、女性が安心して学び、活躍できる環境が整っている大学であることを、より多くの方に発信していく予定です。

SAマスコットキャラクター「たまか」

1913年、日本初の女子大生3人が東北帝国大学で誕生しました。その一人、黒田チカはタマネギの外皮色素ケルセチンに血圧降下作用があるという大発見をしました。「たまか」は、「タマネギ」と「チカ」を組み合わせで名付けられたサイエンス・アンバサダーの新しいキャラクターです。発芽した玉ねぎで、頭の緑芽は成長する女性の力を象徴しています。鳴子温泉川渡地域づくりユニット「カガモク」で作られた鳴子こけしの「たまか」は、富永総長にもお披露目され、その親しみやすい姿が関係者の間で温かく受け入れられました。今後は、SA活動のさまざまな場面における広報活動で活躍していく予定ですので、どうぞよろしくお願いいたします。



考案者からのメッセージ

張亦弛さん

(2025年度サイエンス・アンバサダー/医学系研究科 修士2年)

「たまか」には、新しい時代を芽吹かせる若い力と、優しさの中にある芯の強さを込めました。どんなときも笑顔を絶やさず、皆さんのそばで希望を届けられる存在になれば嬉しいです。

開催日: 2025年8月21日(木) 11:30~12:30

配布内容: 伊右衛門 特茶TOKUCHA(提供:サントリーウエルネス株式会社)
「たまか」うちわ

配布数: 576セット



DEI推進センターに

佐々木成江教授と鶴田想人特任助教(研究)が着任しました

佐々木教授は生命科学およびジェンダード・イノベーションを専門とし、研究と並行して複数の大学で学内保育園の設置や女性教員の増加を目指す施策など、女性研究者の支援に取り組んできました。DEI推進に関して国への提言活動、国内でのジェンダード・イノベーションの促進にも尽力しています。鶴田特任助教は科学史・科学論を専門とし、無知学や科学技術による不平等の是正に関する研究を行っています。講義やアウトリーチ活動も積極的に行っています。

■佐々木成江教授のコメント

本年度より教授として着任いたしました佐々木成江と申します。私は、魯迅の『藤野先生』に登場する藤野巖九郎先生の出身地である福井県生まれで、着任後すぐに、魯迅が学んだ階段教室も見学させていただきました。東北大学は、創立当初より「門戸開放」の理念を掲げ、魯迅をはじめとする留学生をいち早く受け入れ、さらには、日本で初めての女子大生3名の入学を許可するなど、まさにダイバーシティを尊重してきた歴史と伝統を持つ大学です。そのような本学において、DEI推進に携われますことを、心より光栄に感じております。これまでに、私はさまざまな大学において生命科学の研究に取り組むとともに、女性研究者の活躍支援やジェンダード・イノベーションをはじめとするDEI推進にも積極的に携わってまいりました。研究者の多様性を確保することは、問題の発見と解決に多様なアプローチをもたらし、研究の創造性と高める原動力となります。さらに、特に科学技術分野においては、これまで見過ごされがちであった性差分析や交差性分析を研究や開発のデザインに取り入れる「ジェンダード・イノベーション」の推進は、研究

の質を高めるだけではなく、新たな社会価値の創造や社会変革にも大きく貢献します。このように、大学におけるDEI推進は、研究力の向上や科学技術の発展に資する実効性の高い戦略の一つです。「人をつなげ、広げる」という自身の強みを生かし、多くの人々と協力しながら、本学が国際卓越研究大学で掲げた「MOVE AND SHAKE.」の精神にのっとり、迅速かつ果敢に変革を実現していきたいと思っています。また、仙台市との連携も通じて、DEI推進に関する新たな制度や産業を創出することで、すべての人々が能力を最大限発揮できる包摂的な地域環境の整備を進めるとともに、優れた人材を惹きつける魅力ある都市づくりにも貢献していきたいと考えております。今後、さまざまな形で皆様とご一緒できますことをとても楽しみにしております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



佐々木成江教授

■鶴田想人特任助教(研究)のコメント

4月に助手として着任し、9月からは特任助教(研究)となりました鶴田想人と申します。専門は科学史・科学論で、これまでジェンダード・イノベーションや無知学といった視点から、“誰一人取り残さない”科学技術と社会のあり方について考えてきました。また、そうした理念をアカデミアだけのものにしないために、研究と教育に加えてアウトリーチにも力を入れてきました。この度、DEI推進センターにてこれまで

の経歴を活かしつつ、学内外での多様性・公平性・包摂性のさらなる実現をお手伝いする機会をいただき、心より嬉しく存じます。本場アメリカでは反DEIの動きもあるなか、本センターから東北大を日本の、そして世界のDEI推進の拠点にできるよう、努めてまいりたいと思います。



鶴田想人特任助教(研究)



次世代育成

2024年TU-UW AOS DEI関連学生交換プログラム

報告

TU-UW Academic Open Space(AOS)は、東北大学(TU)とアメリカのワシントン大学(UW)が共同で教育と研究を促進するためのプログラムです。TUからUWへと学生派遣事業として、自然科学分野では、王彬澤さん(環境科学研究科)、人文社会科学分野では、根本浩希さん(文学研究科)、が採択され、研究に役立つDEIに関する知識、経験を得るために米国ワシントン州に派遣されました。(根本浩希さんの派遣後記は、前号(Vol.4)に掲載)

こんにちは。環境科学研究科博士後期課程3年の王彬澤と申します。今年の春に博士課程を修了し、現在は日本学術振興会特別研究員(PD)として、グローバルサプライチェーンにおける資源利用とそれに伴う環境・生態系への影響を評価する研究を進めています。日本の理工系分野では女性研究者の割合が依然として低いと感じており、アメリカではその割合が40%を超えていることから、その背景にある要因を探りたいという思いで、TU-UW AOS交換プログラムに参加しました。プログラムでは、ワシントン大学の先生方や学生との交流を通じてDEIに関する施設や私の研究テーマに関連する研究室を訪問しました。Department of Gender, Women & Sexuality StudiesおよびAlene Moris Women's Centerを訪問し、Sasha Su-Ling Welland先生や博士課程の学生の方々と、家庭や社会における女性の役割分担、女性研究者が直面し得るキャリア上の障壁、そして必要とされる支援について意見交換を行いました。Welland先生との対話を通じて、文化の違いが女性の内的・外的動機づけに影響を与えることを実感し、大きな示唆を得ました。女性研究者としてのご経験や、そこから得られた支援についてのお話は非常に印象的で感銘を受けました。また、環境森林科学研究科のDan Brown先生およびBrittany Johnson先生とは、採掘活動が森林に与える影響という、私の次なる研究テーマについて意見交換を行いました。ワシントン大学は森林減少分野において先進的な研究を展開しており、貴重な助言を多くいただきました。今回の交流を通じて、東北大学とワシントン大学の間に新たな学術的な架け橋を築くことができたと確信しています。最後に、このような貴重な機会を提供してくださったTU-UW AOS交換プログラムに心より感謝申し上げます。また、滞在中にサポートしてくださった皆様、そしてワシントン大学で出会った先生方や学生の皆様にも深く感謝いたします。この交流で得た経験を大切にしながら、今後もDEIの推進に努めるとともに、東北大学と海外の大学との研究協力をより一層深めていけるよう努力してまいりたいと思います。



王彬澤さん(環境科学研究科)

渡航期間 2025年
3月16日～3月21日(3泊5日)



2024年度 第8回 東北大学優秀女性研究者賞「紫千代萩賞」受賞者3名のコラム



東北大学の各研究機関で活躍する女性研究者として、東北大学優秀女性研究者賞「紫千代萩賞」を受賞した3名の先生をご紹介します。自身の研究内容や今後の研究の展望などを紹介することで、分野を越えた女性研究者のネットワーク拡大の契機となることを目指しています。

※役職・所属等は2025年3月時点のもの

詳細はこちらから
閲覧可能です。

人文・社会科学 分野



内藤 真帆

文学研究科
准教授

業績名

消滅危機に瀕したヴァヌアツ共和国の未解明無文字言語の研究

研究内容

ヴァヌアツ共和国の文字を持たない少数言語、ツツバ語の調査・研究に取り組んできました。ツツバ語の音声・音韻・形態・文の構造を体系的に解明して文法書を作成しました。その過程で、舌唇音が3種(y, b, m)ツツバ語に音素として存在することを突き止め、動画も公開しました。また移動動詞の使い分けから空間認知を実証的に解明しました。さらに突厥碑文に遺る数え方Overcountingがツツバ語にも存在することを明らかにし、ソテツ葉に残された記録と数詞の相関からその生成の謎を解明しました。加えてヴァヌアツの国語ビスラマ語を含んでツツバ語、ビスラマ語、英語の3言語で辞書を編み、ツツバ語の全例文にグロスを付しました。

後輩たちに向けたアドバイスやメッセージ

現地の調査許可を得るまでに、国語ビスラマ語を市場で覚え、ジャングルを歩いて調査地を探し、予備調査をして……と数年かかりました。本調査に入るまでに次々と立ちちはだかる難題に右往左往するときは「踏ん張れ!」と自らに檄を飛ばし、調査地で命の危機に陥り先が見えないときは「七転び八起き」と自らを鼓舞し、電気・水道・ガス・病院の無い調査地で生きるだけで全エネルギーを使い果たして、調査も分析も論文文化も進まないときには「石の上にも三年、いや五年、いや七年」と自らを叱咤激励してきました。いつのときも「意志あるところに道あり」と言い聞かせてきました。枠に囚われない自由な発想を大切に、あなただけの道を切り拓いてください。

農学・生命科学 分野



千葉 杏子

学際科学フロンティア研究所
助教

業績名

キネシンの自己阻害異常とヒト疾患の関わりについての研究

研究内容

私は、細胞内で荷物を運ぶ「キネシン」と呼ばれるモータータンパク質の働きに着目し、その異常がどのようにして神経変性疾患を引き起こすのかを明らかにする研究に取り組んでいます。特に、痙性対麻痺やALSなどの疾患に関連する変異型キネシンの性質を、生化学的・生物物理学的手法を用いて解析してきました。こうした基礎的な知見が、新しい治療戦略の手がかりになることを目指しています。また、キネシンの制御機構にも関心を持っており、タンパク質の構造変化や活性制御の仕組みを解明することにも力を入れています。

後輩たちに向けたアドバイスやメッセージ

後輩の皆さんへ。研究は、思うようにいかないことが多いものです。手を替え品を替え試しても結果が出ない—そんな経験を私も重ねてきました。研究に限らず、日々の生活の中で壁にぶつかることは誰にでもあります。けれど、試行錯誤を重ねる中で必ず道は開けてきます。どうか諦めずに、自分なりの解決法を探してみてください。人生の時間は限られています。得られるものと失うものを冷静に見極め、「今はやめる」という選択も立派な答えです。努力は決して無駄にはなりません。自分の歩みを信じて、前に進んでください。

医歯薬学・保健 分野



佐藤 恵美子

薬学研究科
准教授

業績名

低出生体重が及ぼす世代を超えた影響の研究

研究内容

今回受賞した研究内容は低出生体重が及ぼす世代を超えた影響についての研究です。将来の健康や特定の病気へのかかりやすさというのは、胎児期や生後早期の環境の影響を強く受けて決定されます。低出生体重も将来の健康に影響を与える因子となっていますが、現在、日本の新生児の約10%は低出生体重児であるため、将来的に日本の新成人の10%が低出生体重に関連する腎障害や高血圧などになりやすい健康リスクを抱えることになります。本研究では低出生体重の未熟な臓器が成体期や妊娠中に悪影響を及ぼし、その影響が世代を超えて連鎖することを明らかにしました。また低体重を改善することで危険因子の世代間連鎖を止め得ることを示唆しました。

後輩たちに向けたアドバイスやメッセージ

薬学研究科では2021年4月に女性薬学研究者育成チーム(POLISH)を創設し、将来の薬学研究を担う女性研究者の育成する活動を行っております。POLISHには「磨く」という意味があり、研究者の原石である学生を将来の研究者へと導いていきたいと思いつけた名前になります。研究の話だけでなく、研究者として生きていくための内容のセミナーも開催していますので、気になった方はぜひご参加ください。研究者になりたいけど不安、という学生はたくさんいると思いますので、気軽に相談ができる場を提供していきたいです。



お茶大・東大・東北大での三大学連携授業 「ジェンダード・イノベーション入門」を今年度も開催します

DEI推進センターは、全学教育授業として「ジェンダー共創社会」「インクルージョン社会」に加え、2023年度後期よりお茶の水女子大学・東京大学との三大学連携授業「ジェンダード・イノベーション入門」を運用しています。今年度も2単位が取得できる全学の集中講義として、2月4〜6日・10日に開講します。授業は、理系・文系を横断する8つの座学と7回のグループワークを、オンラインで実施します。ジェンダード・イノベーションに関連する学界の最新の動きを学ぶと同時に、東大やお茶大の学生さんとグループ討論ができる貴重な機会となります。奮って受講してください(受講は各大学15名程度、受講希望者が多い場合は抽選となります)。

■三大学の教員によるリレー講義

①お茶の水女子大学:GI
「ジェンダード・イノベーション」
石井クナツ昌子先生

②お茶の水女子大学:地理情報科学×GI
「通勤・送迎行動シミュレーションによる大都市における職住関係の可視化」
宮澤仁先生

③お茶の水女子大学:科学史×GI
「科学史研究からGIへ」
小川眞里子先生(三重大学名誉教授)

④東京大学:無知学×GI
「無知学の視点から見たGI」
隠岐さや香先生

⑤東北大学:分子細胞生物学×GI
「生命科学におけるGI」
佐々木成江先生

⑥お茶の水女子大学:建築学×GI
「建築学からみたジェンダード視点でのイノベーションへのアプローチ」
長澤夏子先生

⑦東京大学:性差医学×GI
「健康医学とGI」
孫輔卿先生

⑧東北大学:医工学×GI
「触覚・触感とGI」
田中真美先生

※内容の変更が生じる可能性があります



2025年度 サイエンス・アンバサダー(SA)紹介と活動報告

詳細は
こちらから



5/31[±]

2025年度 東北大学 サイエンス・アンバサダー オリエンテーション

2025年度に任命された東北大学サイエンス・アンバサダー(全49名(ボランティア1名含む))を対象に、オリエンテーションを実施しました。

オリエンテーション後には、SAの皆さんと教員やスタッフとの交流会が執り行われ、活発な情報交換が行われました。意欲溢れるSAの皆さんと大変有意義で楽しい時間を過ごしました。

会場 東北大学 片平会館2階エスパス



7/30^水

7/31^木

オープンキャンパス 女子中高生のための大学進学やキャリア選択に 役立つ講演会&交流会

東北大学オープンキャンパス2025が対面で開催されました。DEI推進センターでは、SA主導【女子中高生のための大学進学やキャリア選択に役立つ講演会&交流会】をテーマに二日間500人を超える中高生や保護者と交流することができました。

第1部の講演会では、東北大学副学長の田中真美教授による本学DEI推進の取り組みについての紹介に続いて、理学部OGが日替わりで登壇し、大学での学びと企業でのキャリアについて紹介しました。その後、SAによる研究紹介も行われ、多様な分野の研究の魅力が語られました。

会場 東北大学 理学研究科合同C棟多目的室(2階)



9/26^金

宮城県宮城第一高等学校 金属材料研究所訪問

宮城県宮城第一高等学校の2年次生50名が東北大学金属材料研究所を見学しました。生徒たちは3グループに分かれ、工学研究科・情報科学研究科のSA3名による進路選択・研究内容に関する発表、計算材料学センターのスーパーコンピュータ見学、梅津理恵教授(金属材料研究所 副所長)の研究室訪問を行いました。

SAは高校物理などの基礎知識をもとに研究内容をわかりやすく紹介し、生徒たちは興味深く耳を傾けていました。質疑応答では、工学研究科志望の生徒が関心を示しており、東北大学への進学意欲が一層高まった様子でした。

会場 金属材料研究所2号館 1階 講堂



◆DEI推進センターインターン後記(コモモさん/日本からアメリカの大学に進学)

一か月のインターンは想像以上にあっという間に過ぎました。アメリカの大学生生活の最後の夏休みを日本で過ごす中で、東北大学DEI推進センターでの経験は大きな意味を持つものとなりました。母から送られたセンターの助教募集のお知らせをきっかけに、夏休みの短期間だけインターンとして働くことができないかとお願いしたところ、温かく受け入れてくださったのが今回の経緯です。

具体的に行ったのは、大きく分けて以下の二つです。一つは、DEIラウンジにて「アメリカの大学におけるDEIの現状」について発表し、質疑応答を含めて2時間にわたり参加者と活発な意見交換を行いました。準備段階で先生方と日本との違いや現行の取り組みについて議論しながらスライドを作成できたことも貴重な経験でした。二つ目に、オープンキャンパスにて、新キャラクター「たまか」の紹介コーナーと、生理について考えるコーナーを企画から設置まで一貫して担当しました。生理コーナーに関しては、まだまだ触れにくいテーマである「生理」をより多様な層へ届け、考える機会を創り出すため、封入チラシなどに工夫を施しました。

当初は業務内容が未知数で不安もありましたが、実際には先生方やスタッフの皆さんに支えられながら、自由度の高い環境で主体的に取り組むことができました。形式的な退勤時間を過ぎてても夢中で作業を続けてしまうほど、やりがいを感じる毎日でした。

また、滞在中「もし自分が日本の大学に通っていたら」という想像を膨らませることもできました。特に学生の方や留学生との対話は刺激的で、多様な背景を持つ人々と学び合うことの楽しさを改めて実感しました。

この経験は学びを実践に移す難しさと面白さを体感するとともに、多くの人との出会いを通じて自分の視野を大きく広げる時間となりました。温かく迎え入れてくださった先生方と学生の皆さんに、心から感謝しています。

インターン期間 7月9日(水)~7月31日(木)



「たまか」紹介コーナー



第12回「澤柳記念DEI賞」授賞式・受賞講演会

日時 2025年9月2日(火) 授賞式・受賞講演会/14:00～ 開催方法 ハイブリッド開催(オンライン:Zoom 会場:片平北門会館2階エスパス)



第12回澤柳記念DEI賞の授賞式・受賞講演が9月2日に開催され、「消化器外科女性医師の活躍を応援する会」代表の河野恵美子氏と「東北大学性を考えるサークルAROW」代表の根本浩希氏が出席しました。梅津理恵教授による審査講評の後、富永悌二総長より賞状が授与され、各団体による講演が行われました。河野氏は、女性医師の消化器外科領域での参画促進について発表。根本氏は、性に関する啓発活動の報告を行いました。対面・オンライン合わせて62名が参加しました。

※役職・所属等は2025年9月時点のものです。



河野恵美子氏

◎澤柳記念DEI賞／「消化器外科女性医師の活躍を応援する会」

課題名 「女性医師・研修医・医学生の消化器外科領域への参画を促進し、活躍の場を広げる」

◎澤柳記念DEI奨励賞／「東北大学性を考えるサークルAROW」

課題名 「『性をまじめにオープンに!』を理念に、性に関する様々なテーマについてのイベント開催や、情報発信を行う」



澤柳フェロー ランチミーティング ～富永悌二総長との懇談会～開催

2025年度第2回目の澤柳フェローランチミーティングが富永悌二総長を迎え、盛大に行われました。昨年に引き続き対面で開催されたランチミーティングでは、本学執行部の女性役員(杉本亜砂子理事、田中真美副学長)が参加、他に12名の澤柳フェローも参加して若手の女性研究者たちと交流を深めました。田中副学長の開会の挨拶に続き、富永総長からはユーモア溢れるコメントと共に卓越研究大学としての女性研究者の活躍への期待を述べ、大学としてもできるだけの支援を継続すると約束しました。次に東北大学の女子卒業生たちの組織、紫蘭会から奥山恵美子会長の祝辞を賜り、その後、杉本亜砂子研究担当理事の乾杯の音頭で食事と歓談を始めました。ランチ ミーティングの終盤には、TUMUGの両立支援を受けている先輩として、薬学研究科の佐藤恵美子先生と工学研究科の菊池洋平先生から一言ずつ感想をいただきました。佐藤先生からは、10年以上ほぼワンオペ状態での子育てにおいてTUMUG支援がどれほど力強かったのかを述べていただき、菊池先生からは人生には予測がつかないできごとが付きもので、自分一人ではどうしようもない時に支援を受けられることにホッとしたという経験を話していただきました。当日は、多様な分野と出身地から60名(関係者を含む)の研究者が参加し、ネットワーキングを楽しみました。DEI推進センターは、今後も様々な背景と状況にある構成員たちが、互いにその多様性を認めつつ、なおかつ公正で包摂的な大学の一員として個々人の能力を発揮できるようサポートしていきたいと思います。



澤柳フェロー
一覧は
こちらから



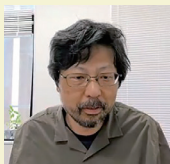
日時 2025年6月16日(月)12:00-13:00

対象 本学女性研究者(教授、准教授、講師、助教、助手、ポスドク(教育研究支援者など))、およびDEIに関心を持つ教職員・大学院生

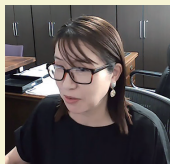


次世代育成

2025年度 第1回・第2回TUMUG Café online科研費セミナー



中谷 友樹 教授



伊賀 由佳 教授

女性研究者を対象とした科研費セミナーをオンラインで開催しました。第1回目は中谷友樹教授(JSPS学術システム研究センター専門研究員(人文学専門調査班)、環境科学研究科)、第2回目は伊賀由佳教授(JSPS学術システム研究センター専門研究員(工学系科学専門調査班)、工学研究科)を講師にお迎えし、科研費の仕組みや今年の変更点、そして採択に向けて書き方のコツなどについて説明がありました。

開催日：第1回(人文・社会科学系)8月6日(水)／第2回(生物・理工系)8月20日(水)12:00-13:00

開催方法：オンライン(Zoom) 対象：女性研究者 参加人数：第1回21名、第2回30名(関係者含む)



TUMUG オンラインランチミーティング

TUMUG online Lunch Meetingは、2020年4月よりスタートし、以後東北大学の女性研究者のネットワークの形成及び実質的な学際融合研究等への発展を目的に定期的に実施されています。今年度前半は、4月と5月に開催され、各回30～40名前後の参加がありました。4月に開催された、第37回目は、DEI推進センターの紹介と、TUMUG支援制度・本学の支援制度について紹介しました。

5月に開催された、第38回目は、2024年 TU-UW AOS DEI関連学生交換プログラムに採択され、米国ワシントン大学に派遣された学生からの派遣成果報告と、2025年度よりDEI推進センターに着任された先生方の研究紹介をしていただきました。

王彬澤さん(環境科学研究科)、根本浩希さん(文学研究科)、佐々木成江教授(DEI推進センター)、鶴田想人助手(DEI推進センター) ※役職・所属等は2025年5月時点のものです。

これからもオンラインランチミーティングを継続し、ネットワークを広げ確固したものにして行きたいと思っています。多くの方の参加をお待ちしております。



報告

東北大学DEIシンポジウム

「科学技術分野の女性人材育成をどう加速できるか — 日韓比較から考える課題と展望 —」

日時 2025年11月20日(木)13:30~16:00

会場 ハイブリッド開催／【会場】東北大学青葉山コモンズ2階大講義室(翠生ホール)、【オンライン】Zoom(ウェビナー)

日本では様々な大学や研究機関において、女性研究者を支援するための取り組みが進められています。しかしながら女性研究者の割合は依然として緩やかな増加にとどまり、現在も約18.5%とOECD諸国の中で最下位に位置しています。とりわけ科学技術分野では女性研究者の参画が限られており、構造的課題が多く残されています。一方、韓国は2000年代初頭には日本と同様の状況でしたが、制度設計や政策の推進により大きな改善を遂げました。本シンポジウムでは、日韓比較を通じて科学技術分野における女性人材の育成と参画を加速するための課題と展望を議論します。



Heisook Lee氏

基調講演

「STEM分野におけるジェンダー平等を推進するために： 構造的障壁と知の偏りに対する韓国の政策」

韓国科学技術ジェンダー・イノベーションセンター(GISTeR) センター長／梨花女子大学 名誉教授
Heisook Lee氏

講演

「東北大学におけるDEI推進～皆が輝ける大学を目指して～」

東北大学副学長(ダイバーシティ担当)／DEI推進センター センター長
田中 真美

パネルディスカッション

「未来を担う人材を育て、活かせる社会へ」

詳細・お申込みは
こちらから



DEIあんしんPROJECT を実施しています



「オープンキャンパスにおける 生理用ナプキン無料配布」

東北大学オープンキャンパスにて、誰もが安心して生理期間を過ごす環境づくりを目的に、生理用ナプキンの無料配布を実施しました。配布したのは、東北大学工学研究科 山口・西研究室の研究により開発された肌の摩擦を軽減する製品で、川内・青葉山・星陵キャンパスの対象トイレに設置し、2日間で約13,500枚が配布されました。今後は、より多くの方が安心して利用できるよう、常設化および全キャンパスへの拡大を段階的に進めてまいります。

実施日 2025年7月30日(水)・31日(木)



10月22日(水)より再開

誰もがあんしんして交流する「DEI Lounge」

性的指向・性自認、国籍や文化的背景、年齢、価値観、障がいの有無など、多様な違いを超えて、誰もが安心して交流できるピアコミュニティスペースです。ふらっと立ち寄れる開かれた場として、お昼の時間帯も利用可能です。ワークショップや上映会などを定期的に開催し、DEIへの理解を深め、学内の多様性と包摂性の推進を目指しています。

■毎週水曜日 12:15~16:00
国際交流棟1F交流スペース(川内北キャンパス)

DEI Loungeの
詳細はこちら▶



TUMUG支援事業・ 公募(本部締切)・ イベント情報

10月

October

24金 ベビーシッターおよび
一時託児利用補助 第2回

11月

November

20金 東北大学DEIシンポジウム

27金 第9回東北大学
優秀女性研究者賞
むらさきせんたいはぎしょう
「紫千代萩賞」

詳細はこちら



12月

December

11金 TUMUG オンライン
ランチミーティング 第40回

月末 仙台Iゾンタクラブ
(予定) 東北大学大学院
女子学生国際学会発表
支援事業 後期

TUMUG支援事業の詳細はこちら

※2026年1月以降のスケジュールは、
当センターのWebサイトをご覧ください。



各記事の詳細および当センターの活動予定は、WEBやSNSをご覧ください。



東北大学
ダイバーシティ・エクイティ &
インクルージョン(DEI)
推進センター

TEL 022-217-6092

所在地 〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1
E-mail dei-center@grp.tohoku.ac.jp
W E B https://dei.tohoku.ac.jp

WEB



facebook



X(旧Twitter)

